

平成 24 年度 学校保健統計調査結果報告（広島県分）の概要について

平成 25 年 4 月 10 日
統 計 課

1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和 23 年から毎年実施しているものです。

この速報は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満 5 歳から満 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の 2 調査について、平成 24 年度の基本的事項をまとめたものです。

2 調査結果の主な特徴

- (1) 身長（平均値）は、男子の 12 歳及び女子の 15 歳で調査実施以来の最高値となっています。
- (2) 疾病・異常の被患率は、幼稚園及び小学校では「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、中学校及び高等学校では「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合が最も高くなっています。
- (3) 「むし歯（う歯）」の者の割合は、小学校を除く学校段階において前年度を下回っており、全国との比較では、いずれの学校段階においても全国の割合を下回っています。

3 調査結果の概要

(1) 発育状態調査

ア 身長

身長（平均値）は、前年度比較において、男子は 6 歳、9 歳、12 歳、13 歳、14 歳及び 17 歳について増加し、また、女子については、7 歳、13 歳、15 歳及び 17 歳のそれぞれについて増加しました。

また、男子の 12 歳及び女子の 15 歳で調査実施以来の最高値となっています。

さらに、親世代である 30 年前の昭和 57 年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は 12 歳で 3.2cm、女子は 11 歳で 1.5cm、それぞれ親世代より高くなっています。（表 1）

表 1 年齢別身長の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子						女 子						
	平成24年度			昭和57年度			平成24年度			昭和57年度			
	A	前年差	全 国	全国差	B	(A-B)	A	前年差	全 国	全国差	B	(A-B)	
広島県	広島県				広島県		広島県						
幼稚園	5歳	110.1	△ 0.4	110.5	△ 0.4	110.1	0.0	109.3	△ 0.2	109.5	△ 0.2	109.4	△ 0.1
小学校	6歳	116.4	0.4	116.5	△ 0.1	115.4	1.0	114.6	△ 0.5	115.6	△ 1.0	114.5	0.1
	7歳	121.7	△ 0.8	122.4	△ 0.7	121.4	0.3	121.3	0.1	121.6	△ 0.3	120.2	1.1
	8歳	127.6	△ 0.5	128.2	△ 0.6	126.7	0.9	126.5	△ 0.5	127.4	△ 0.9	126.0	0.5
	9歳	133.0	0.3	133.6	△ 0.6	131.4	1.6	132.4	△ 0.5	133.4	△ 1.0	131.7	0.7
	10歳	138.1	△ 0.6	138.9	△ 0.8	136.9	1.2	139.1	△ 0.5	140.1	△ 1.0	138.0	1.1
	11歳	143.9	△ 0.3	145.0	△ 1.1	142.7	1.2	145.6	△ 0.5	146.7	△ 1.1	144.1	1.5
中学校	12歳	※152.3	0.1	152.4	△ 0.1	149.1	3.2	151.2	0.0	151.9	△ 0.7	150.0	1.2
	13歳	158.8	0.3	159.5	△ 0.7	156.7	2.1	154.4	0.2	155.0	△ 0.6	153.6	0.8
	14歳	164.8	0.4	165.1	△ 0.3	163.1	1.7	155.8	△ 0.2	156.5	△ 0.7	155.7	0.1
高等学校	15歳	166.9	△ 0.6	168.4	△ 1.5	166.7	0.2	※157.3	0.6	157.2	0.1	156.4	0.9
	16歳	168.3	△ 1.5	169.8	△ 1.5	168.4	△ 0.1	156.5	△ 0.8	157.6	△ 1.1	156.7	△ 0.2
	17歳	169.8	0.2	170.7	△ 0.9	169.3	0.5	157.5	0.1	158.0	△ 0.5	156.8	0.7

(注) 1 ■ は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

イ 体 重

体重(平均値)は、前年度比較において、男子は6歳、9歳、13歳及び15歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、7歳、10歳、13歳及び17歳のそれぞれについて増加しました。

また、親世代である30年前の昭和57年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で3.6kg、女子は12歳で1.6kg、それぞれ親世代より増加しています。(表2)

表2 年齢別体重の平均値

(単位: kg)

校種・年齢		男 子						女 子					
		平成24年度				昭和57年度		平成24年度				昭和57年度	
		A		全国		B		A		全国		B	
	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	18.7	△ 0.3	18.9	△ 0.2	18.7	0.0	18.4	△ 0.2	18.5	△ 0.1	18.4	0.0
小学校	6歳	21.5	0.4	21.3	0.2	20.7	0.8	20.5	△ 0.1	20.9	△ 0.4	20.3	0.2
	7歳	23.5	△ 0.5	24.0	△ 0.5	23.3	0.2	23.4	0.1	23.5	△ 0.1	22.6	0.8
	8歳	26.9	△ 0.2	27.1	△ 0.2	26.0	0.9	25.7	△ 0.5	26.3	△ 0.6	25.4	0.3
	9歳	30.2	0.4	30.5	△ 0.3	28.4	1.8	29.3	△ 0.4	29.9	△ 0.6	28.5	0.8
	10歳	32.8	△ 1.1	34.0	△ 1.2	31.9	0.9	33.6	0.1	34.0	△ 0.4	32.4	1.2
中学校	11歳	36.9	△ 0.5	38.2	△ 1.3	36.0	0.9	37.7	△ 0.7	38.9	△ 1.2	36.7	1.0
	12歳	44.0	△ 0.2	44.0	0.0	40.4	3.6	43.6	△ 0.1	43.7	△ 0.1	42.0	1.6
	13歳	48.8	0.4	49.0	△ 0.2	46.3	2.5	47.2	0.6	47.4	△ 0.2	45.9	1.3
高等学校	14歳	54.0	0.0	54.2	△ 0.2	51.9	2.1	49.5	△ 0.1	49.9	△ 0.4	49.3	0.2
	15歳	58.1	0.2	59.2	△ 1.1	55.4	2.7	50.9	△ 0.7	51.6	△ 0.7	51.9	△ 1.0
	16歳	60.0	△ 0.6	61.1	△ 1.1	58.2	1.8	51.1	△ 1.0	52.5	△ 1.4	51.8	△ 0.7
	17歳	61.4	△ 0.9	62.9	△ 1.5	60.1	1.3	53.2	0.8	52.9	0.3	52.3	0.9

(注) は前年度より増加した値を示す。

ウ 座 高

座高(平均値)は、前年度比較において、男子は6歳、9歳、13歳、14歳、15歳及び17歳のそれぞれについて増加し、また、女子は、5歳、7歳、13歳及び17歳のそれぞれについて増加した。

また、男子は14歳及び15歳で、女子は13歳、14歳、15歳及び17歳でそれぞれ調査実施以来の最高値となっています。

さらに、親世代である30年前の昭和57年度調査と比べてみると、最も差があるのは、男子は12歳で1.5cm、女子は11歳及び17歳で0.8cm、それぞれ親世代より高くなっています。(表3)

表3 年齢別座高の平均値

(単位: cm)

校種・年齢		男 子						女 子					
		平成24年度				昭和57年度		平成24年度				昭和57年度	
		A		全国		B		A		全国		B	
	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	広島県	前年差	全 国	全国差	広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	61.8	△ 0.1	61.9	△ 0.1	62.5	△ 0.7	61.4	0.1	61.4	0.0	62.1	△ 0.7
小学校	6歳	64.9	0.2	64.8	0.1	64.9	0.0	63.9	△ 0.3	64.4	△ 0.5	64.5	△ 0.6
	7歳	67.3	△ 0.4	67.6	△ 0.3	67.6	△ 0.3	67.2	0.1	67.3	△ 0.1	67.1	0.1
	8歳	70.1	△ 0.2	70.3	△ 0.2	70.0	0.1	69.6	△ 0.2	69.9	△ 0.3	69.5	0.1
	9歳	72.5	0.1	72.6	△ 0.1	72.0	0.5	72.4	△ 0.1	72.6	△ 0.2	72.1	0.3
	10歳	74.6	△ 0.4	74.9	△ 0.3	74.5	0.1	75.4	△ 0.3	75.8	△ 0.4	75.1	0.3
中学校	11歳	77.2	△ 0.1	77.5	△ 0.3	76.7	0.5	78.8	△ 0.3	79.2	△ 0.4	78.0	0.8
	12歳	81.3	△ 0.2	81.3	0.0	79.8	1.5	82.1	△ 0.1	82.2	△ 0.1	81.6	0.5
	13歳	84.6	0.2	84.9	△ 0.3	83.6	1.0	※83.9	0.1	83.9	0.0	83.3	0.6
高等学校	14歳	※88.1	0.2	88.2	△ 0.1	86.8	1.3	※84.8	0.0	84.9	△ 0.1	84.4	0.4
	15歳	※90.1	0.3	90.3	△ 0.2	89.1	1.0	※85.8	0.0	85.4	0.4	85.3	0.5
	16歳	91.2	△ 0.1	91.3	△ 0.1	90.1	1.1	85.3	△ 0.5	85.7	△ 0.4	85.2	0.1
	17歳	91.6	0.4	91.9	△ 0.3	90.5	1.1	※85.9	0.2	85.8	0.1	85.1	0.8

(注) 1 は前年度より増加した値を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

(2) 健康状態調査

ア 主な疾病・異常の被患率順位

平成 24 年度の定期健康診断における幼児，児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は，幼稚園及び小学校では「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ)が，中学校及び高等学校では「裸眼視力 1.0 未満」の者が 1 位となっています。小学校ではこれに次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」，「鼻・副鼻腔疾患」となっており，中学校，高等学校では「むし歯(う歯)」が続いています。(表 4)

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	37.6	むし歯(う歯)	51.7	裸眼視力 1.0未満の者	51.2	裸眼視力 1.0未満の者	53.1
2	鼻・副鼻腔疾患	4.8	裸眼視力 1.0未満の者	27.9	むし歯(う歯)	36.3	むし歯(う歯)	49.7
3	耳疾患	4.3	鼻・副鼻腔疾患	12.2	鼻・副鼻腔疾患	9.8	鼻・副鼻腔疾患	8.4
4	アトピー性皮膚炎	3.5	眼の疾病・異常	6.4	歯垢の状態	6.0	歯垢の状態	5.0
5	眼の疾病・異常	2.3	耳疾患	4.6	眼の疾病・異常	5.8	歯肉の状態	4.2
6	その他の皮膚疾患	1.6	アトピー性皮膚炎	3.9	歯列・咬合	4.7	心電図異常	3.7
7	歯列・咬合	1.6	歯列・咬合	3.5	歯肉の状態	4.6	歯列・咬合	3.6
8	ぜん息	1.3	ぜん息	3.3	蛋白検出の者	3.8	眼の疾病・異常	3.6
9	口腔咽喉頭疾患・異常	0.9	心電図異常	2.3	アトピー性皮膚炎	3.1	蛋白検出の者	2.6
10	せき柱・胸郭	0.3	歯垢の状態	2.2	耳疾患	3.1	アトピー性皮膚炎	1.5

(注) 幼稚園の「裸眼視力 1.0 未満の者」は，裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

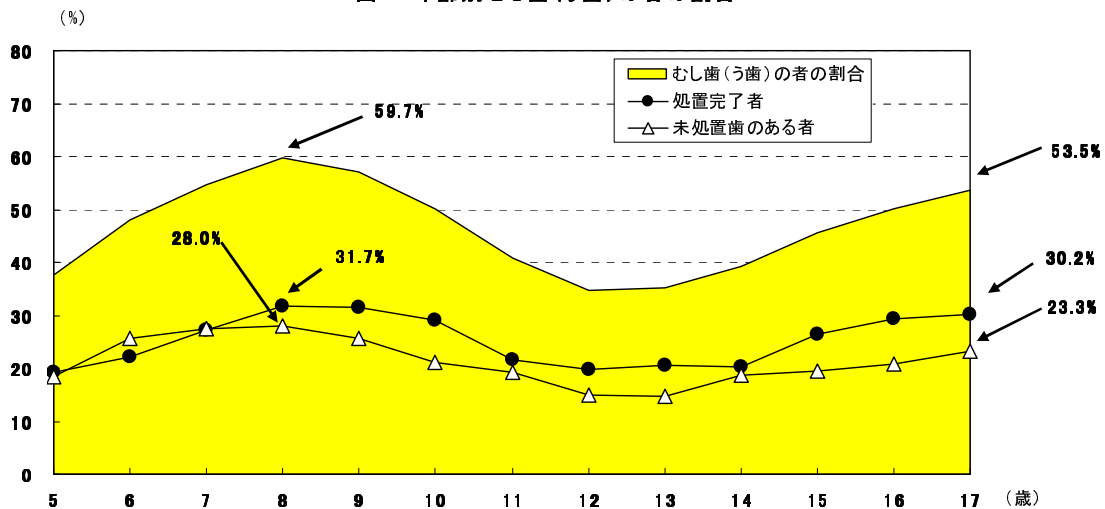
イ むし歯(う歯)の状況

(1) 年齢別の推移

平成 24 年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は，幼稚園が 37.6%，小学校 51.7%，中学校 36.3%，高等学校 49.7%となっています。

「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると 8 歳が 59.7%と最も高くなっています。また，8 歳以降では，処置完了者の割合が未処置歯のある者の割合を上回っています。(図 1)

図 1 年齢別むし歯(う歯)の者の割合

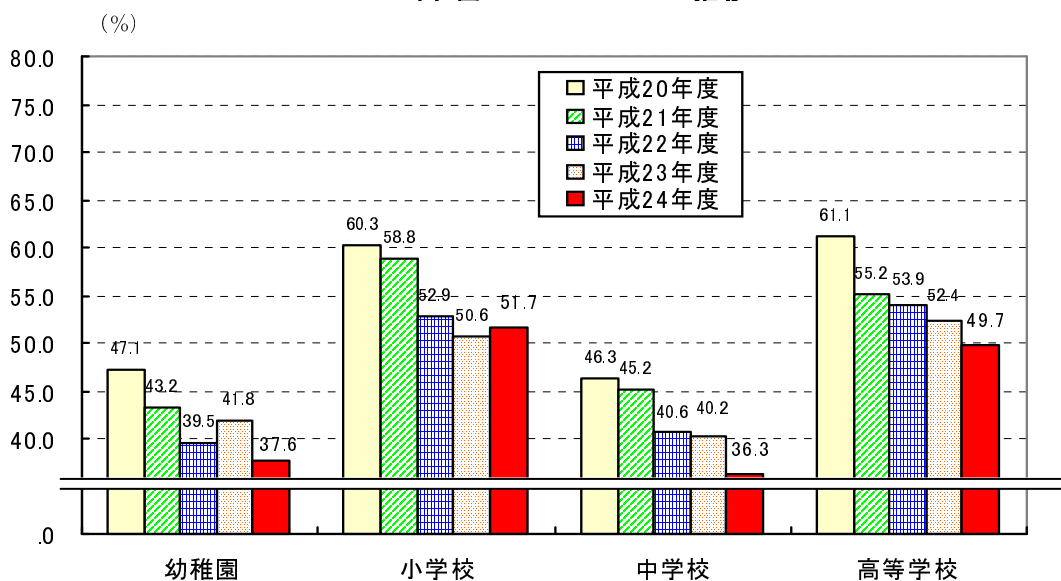


(2) 時系列の推移

平成 24 年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は、小学校を除く学校段階で前年度を下回っています。

また、平成 20 年度以降の推移をみると、いずれの学校段階においても低下傾向にあります。（図 2）

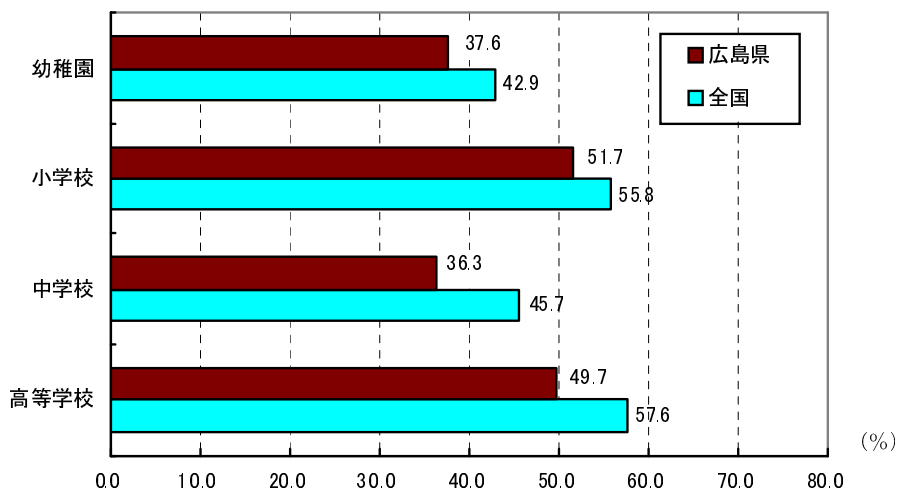
図 2 むし歯（う歯）の者の割合の推移



(3) 全国との比較

「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国の割合を下回っており、特に中学校では 9.4 ポイントの差があります。（図 3）

図 3 むし歯（う歯）の者の割合（全国との比較）



問い合わせ先

広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ
 電話 082-513-2534 (ダイヤルイン)